

日新輝道



東大阪市立日新高等学校
校長室通信 日比野 功

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

2021. 02. 02 発行

日新高校は、「日本一」輝きを放つ学校をめざします！

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」で夢を実現させます！

勝てるチームは、「当たり前」を当然のように実行する。

勝てないチームは「当たり前」を論議し、結局実行しない。

先日、今年の成人式についてメディアでトークされている番組がありました。成人式の後、若者が集まって飲食を伴いながら騒いでいたことについて、成人式開催の可否に焦点をあて議論する内容でした。

今年の成人式は、コロナウィルス感染拡大に係る影響を考慮し、思いは深けれど中止や延期を決定された自治体も多くあります。中止や延期に伴い、主役である新成人だけでなく、成人式に関連する仕事をされている多くの方々や、その他、多方面の方々への困惑もある中での決定です。また、なんとか成人式を開催することができないかと、新成人の一生に一回の晴れ舞台という思いを重視して工夫を凝らして開催された自治体もあります。いずれにしても新成人の皆さんは、こうした思いを真剣に受け止めなければなりません。特に、工夫に工夫を凝らして、考えに考えを重ねて開催していただいた自治体の新成人の皆さんは、この思いに対して、きちんとした行動で応えなければなりません。それ故に、どの自治体の方々も、この新型コロナウイルス感染拡大という現状の中で、成人式後の成人として非常識な行動を慎んで欲しいと願っておられるはずで

す。日新高校は、「当たり前」のことを「当たり前」に実行し、「日本一輝く」学校をめざそうとしています。成人式を例にとると、開催準備をしてくださっている人たちは、新成人の皆さんにとってはほとんど顔も知らない方々のはずです。そのような方々が、工夫に工夫を凝らし、考えに考えを重ねて、様々な思いのもと開催して下さったのです。それならば、感謝の気持ちを持って会場におられる方々に接し、思いを受け止めた態度や行動でお返しし、開催して下さった方々が辛い思いをすることのないように振る舞うことが当然であるはずで

す。東大阪市では、花園ラグビー場での開催でした。ラグビーワールドカップの開催地、高校ラグビーの聖地である花園ラグビー場での開催準備に携わっておられた方々のご苦勞も、東大阪市立唯一の高等学校である日新高校から、その一端を感じる場面もありました。

境によっても様々でしょう。「当たり前」という感覚は、個人が所属するチームや組織の環境によって磨かれます。勝てるチームは「当たり前」を当然のように実行しています。勝てないチームは何故かお決まりのように「当たり前」って何かと論議し、結局、「当たり前」でないことを選択します。

日新高校は、「当たり前」の感覚を鈍らせるのではなく、「当たり前」の感覚を磨き、輝かせることのできる「空気感」を持った学校でありたいと思っています。

「当たり前」と思うならば徹底すれば良い。それは個人やチームの財産となり「文化」を創造する。

勝てるチームと勝てないチームを注視してみると、いくつか共通なことが見えてきます。グラウンド整備や全力疾走、あいさつや振る舞いの違いといったことは当然のことなのですが、何事にも徹底できているチームと適当であるチームに分かれます。

時間に関しても同様です。時間に関する意識が徹底されているチームは、集合時間には遅れてきません。むしろ少し早い目に集合することが常識となっています。早く行動することで会場入りするまでに余裕ができ、意識の準備もできています。また、早く集合して待機している様子も、一定の統率のとれた行動をしています。特に誰かに指示をされている訳ではありません。

勝てないチームは集合時間のギリギリに集まってくる人が多いと感じます。時には何人かが少し遅れて集まってくる場合もあります。試合開始に遅れたという訳ではありませんし、慌てたとしても球場入りを止められることはありませんから、特に問題が発生する訳ではありません。どちらかという「まあ間に合ったからいいか。」という感じ

です。ただ、気になることは、往々にして、指定された集合時間に何人かで一緒にギリギリに駆け込んで来る選手、少し遅れて到着する選手はすべて上級生であることがあります。下級生は全員、少し前には到着して待機しています。勝負は試合の前から決まっています。結果は明らかです。どのチームも頑張っていることには間違いありませんが、粘りや意気込み、プレーに対するていねいさや必死さが随所に違います。攻守交替の様子やベンチからかける声などの質も違います。総合して比較すると、チームの「空気」が違います。その要因は、日常の練習の在り方、意識の持ち方、具体的な行動の在り方が違っているからだと感じます。日常的にこだわっていること、徹底して意識し、実際に行動として行っていることの積み重ねは、やがてそのチームの「文化」となります。集合時間に間に合っていた下級生たちが上級生となったとき、ぜひ、チームの文化を変えて欲しいと思う一例です。

チームや組織の「文化」を変えるには、チーム全体の意識改革が必要です。日新高校が「日本一」輝きを放つ学校として前に進むために、まずは個人が取り組み、仲間と一緒に取り組み、チーム全体で取り組む。もし勝てないチームの要因があれば個人、仲間、チームがそれぞれが修正し、勝てるチームの要因を限りなく磨き続けていかなければなりません。必ず「日本一」輝きを放つ学校に磨きあげましょう。